

2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年11月26日
中央化学株式会社

(JASDAQスタンダード:7895)

目次

- 1 2022年3月期 第2四半期 実績

- 2 2022年3月期 連結計画

- 3 2022年3月期 取り組み方針

- 4 2022年3月期 第2四半期 振り返り

- 5 2022年3月期 下半期取り組み

- 6 中央化学の地球環境保全への取り組み

1. 2022年3月期第2四半期 実績

2022年3月期（第2四半期） 連結実績

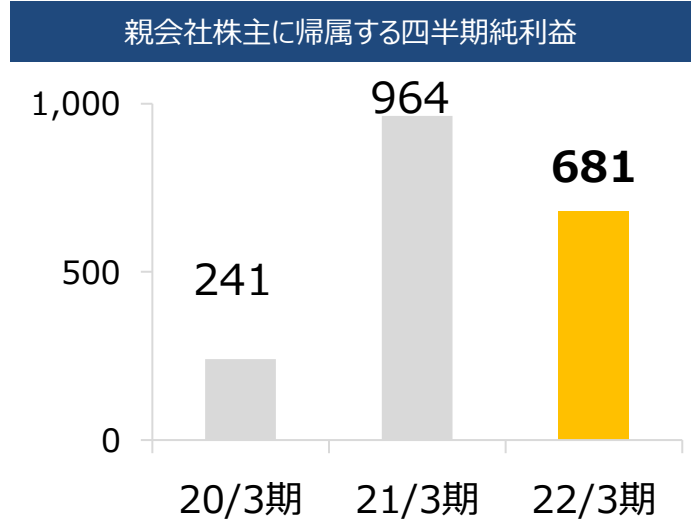
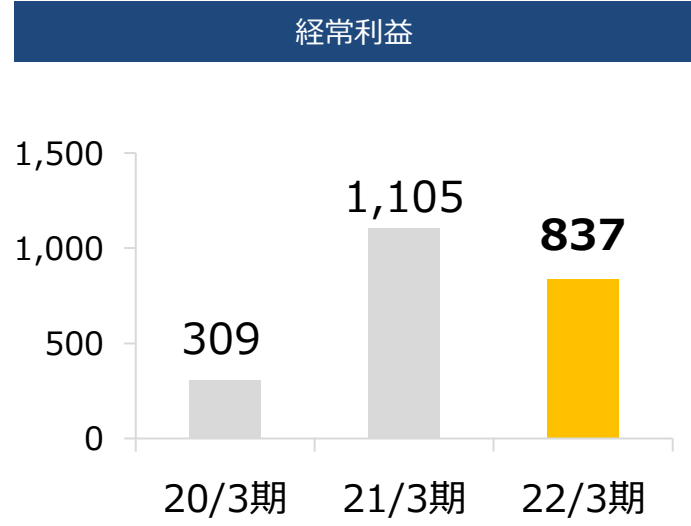
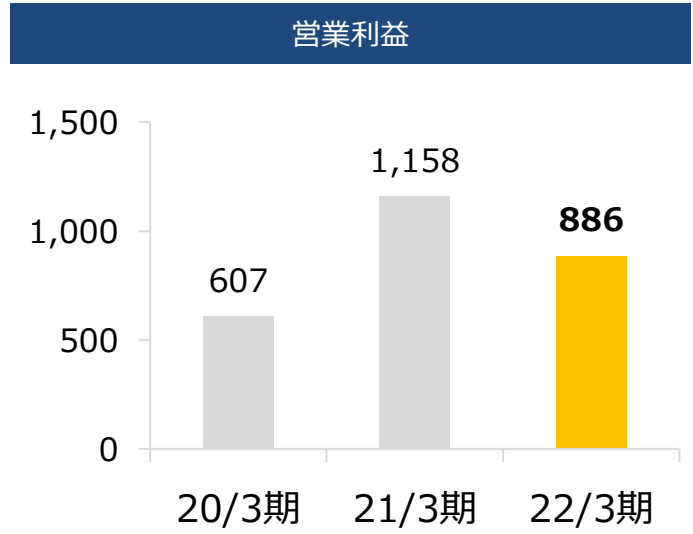
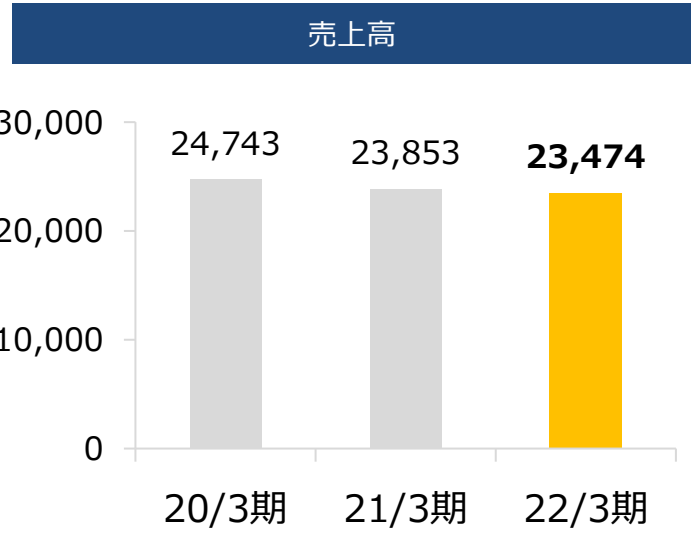
1. 2022年3月期（第2四半期）実績

売上高
234億円

営業利益
8.8億円

経常利益
8.3億円

親会社株主に帰属する
第2四半期純利益
6.8億円

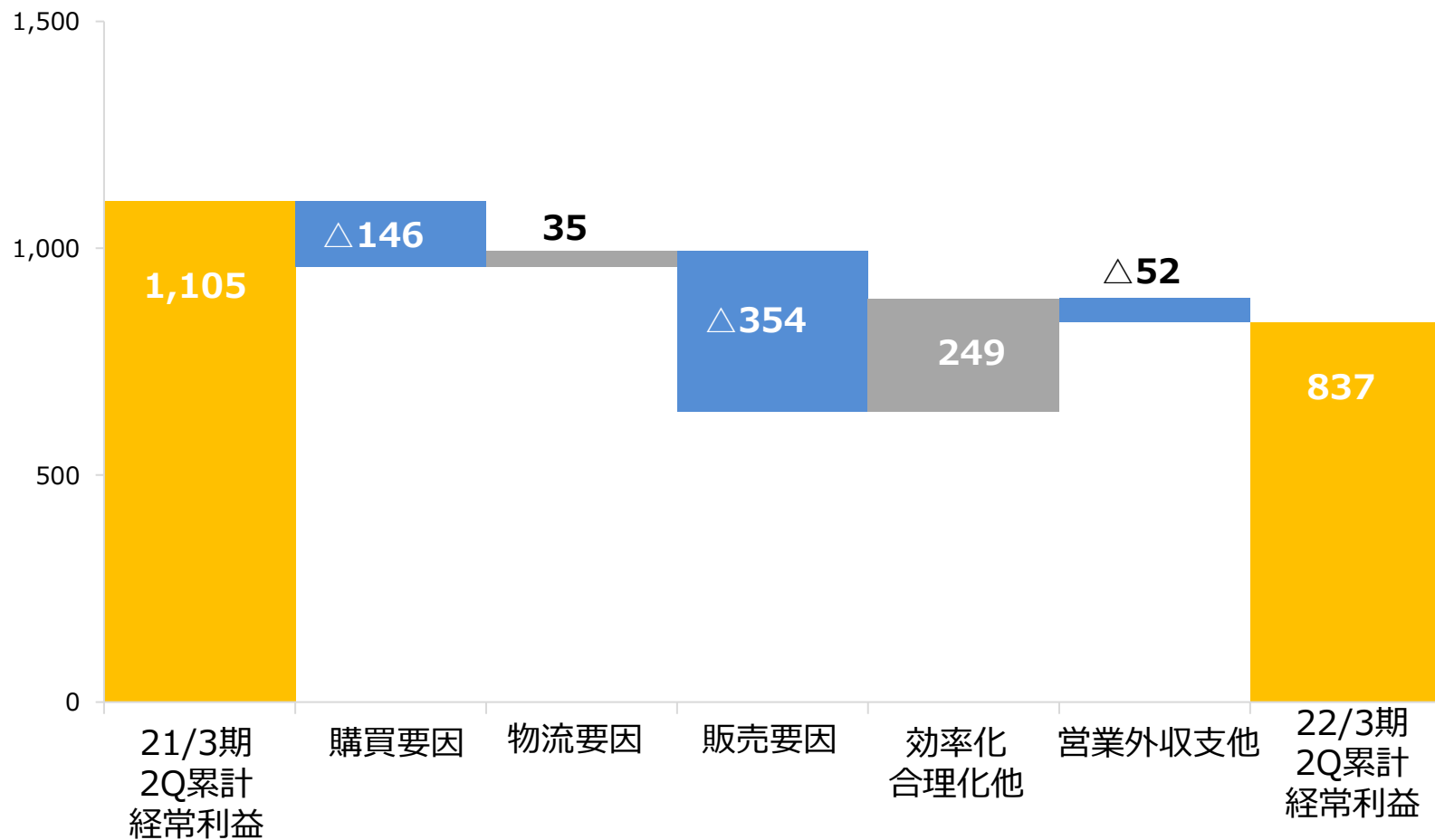


第2四半期累計となります。

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

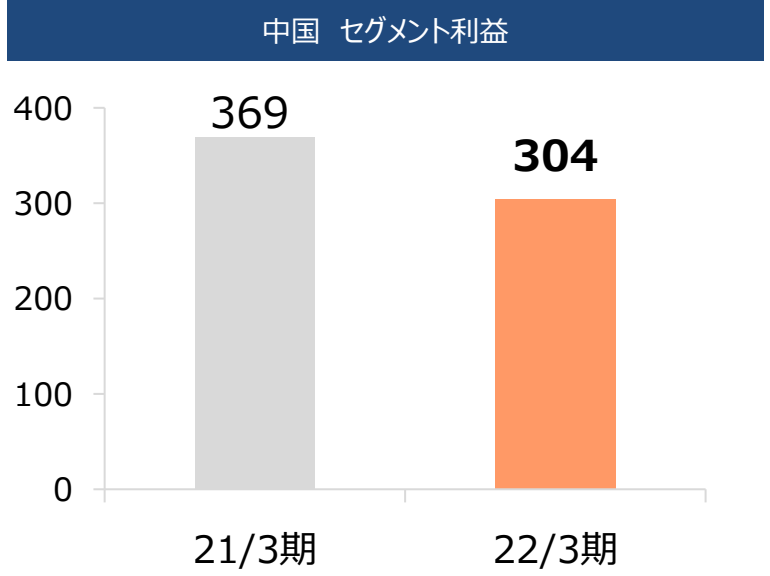
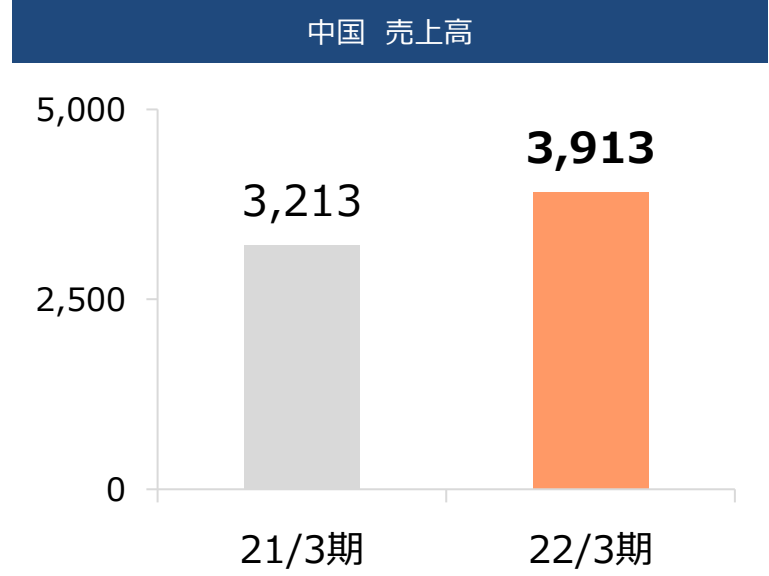
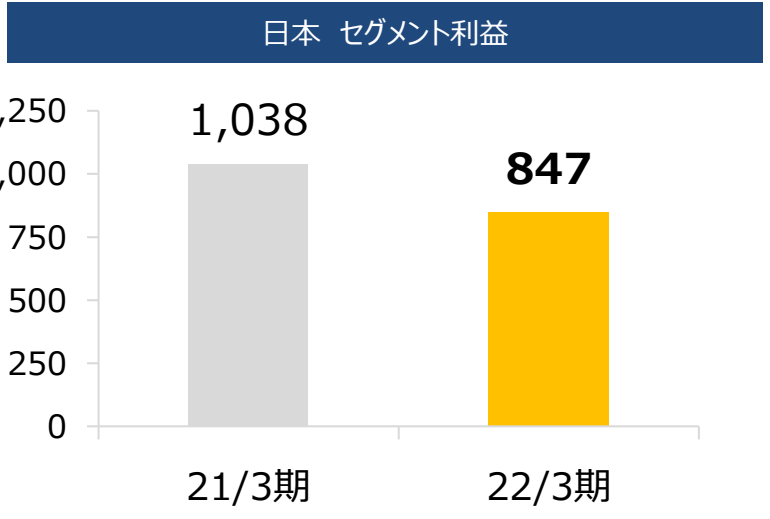
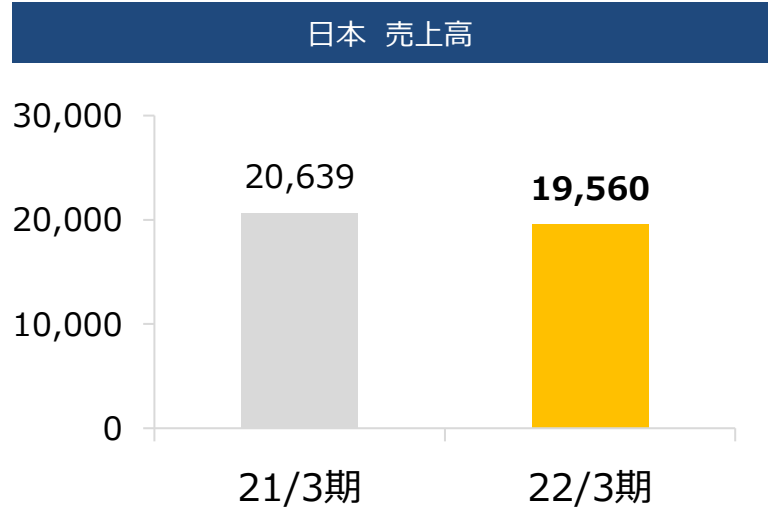
2022年3月期（第2四半期）連結経常利益の増減（前年度対比）

（百万円）



報告セグメントの売上高・利益

1. 2022年3月期（第2四半期）実績



(注) 上記セグメント利益は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用合計265百万円差引前の営業利益になります。

連結貸借対照表

1. 2022年3月期（第2四半期）実績

	21/3期 期末実績	22/3期 2Q末実績	(百万円) 増減
流動資産	20,519	23,005	2,486
現金及び預金	3,584	5,474	1,890
受取手形及び売掛金	7,629	7,839	210
たな卸資産	7,064	7,670	606
その他	2,240	2,020	△220
固定資産	15,975	15,595	△380
有形固定資産	14,484	14,160	△324
無形固定資産	374	365	△9
投資その他の資産	1,116	1,069	△47
資産合計	36,495	38,600	2,105
負債合計	27,214	28,525	1,311
有利子負債残高	11,266	12,783	1,517
純資産合計	9,280	10,075	795
自己資本比率	25.4%	26.1%	0.7%
負債純資産合計	36,495	38,600	2,105

キャッシュフローの連結実績

1. 2022年3月期（第2四半期）実績

(百万円)

	21/3期 2Q累計	22/3期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,089	936
投資活動によるキャッシュ・フロー	△361	△216
財務活動によるキャッシュ・フロー	365	1,132
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	38
現金及び現金同等物の増減額	2,108	1,889
現金及び現金同等物の期首残高	2,839	3,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,948	5,468

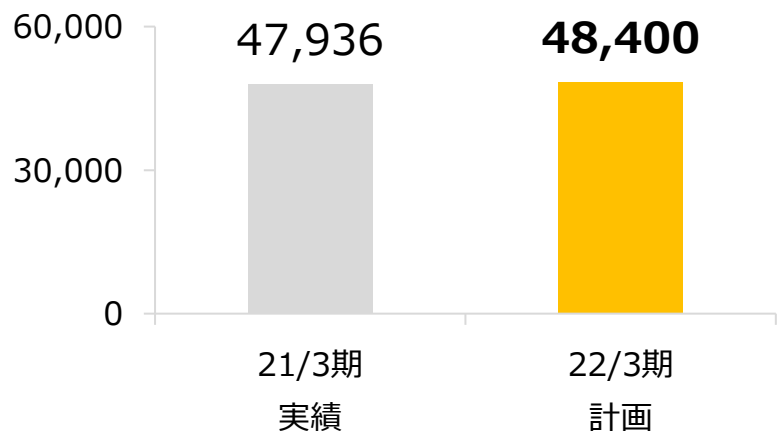
※△は減少

2. 2022年3月期 連結計画

2. 2022年3月期連結計画

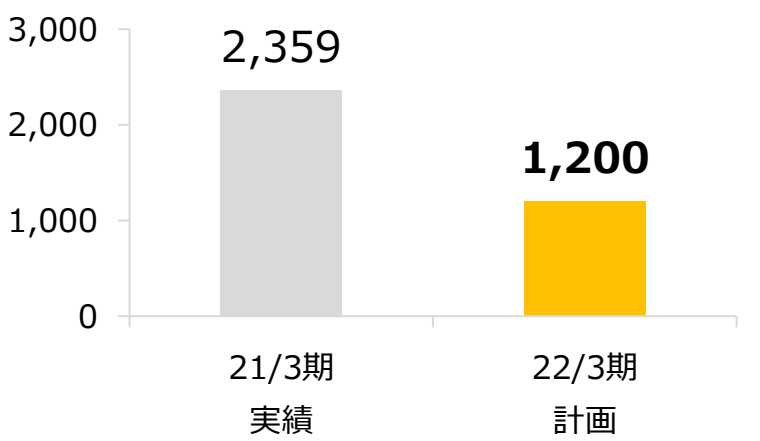
1. 2022年3月期連結計画

売上高

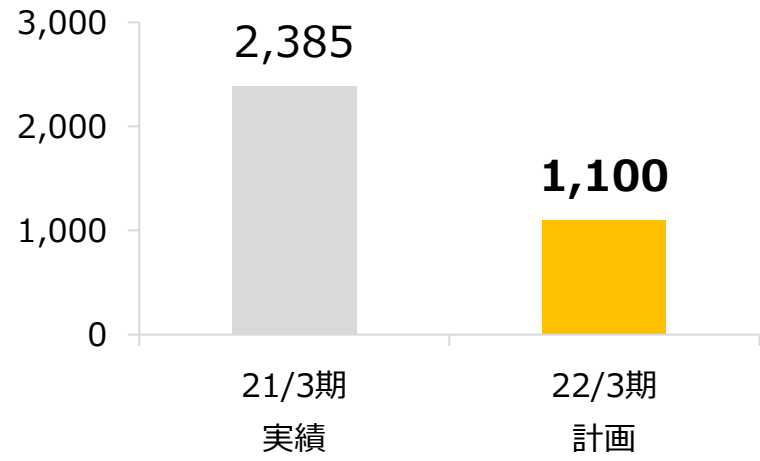


営業利益

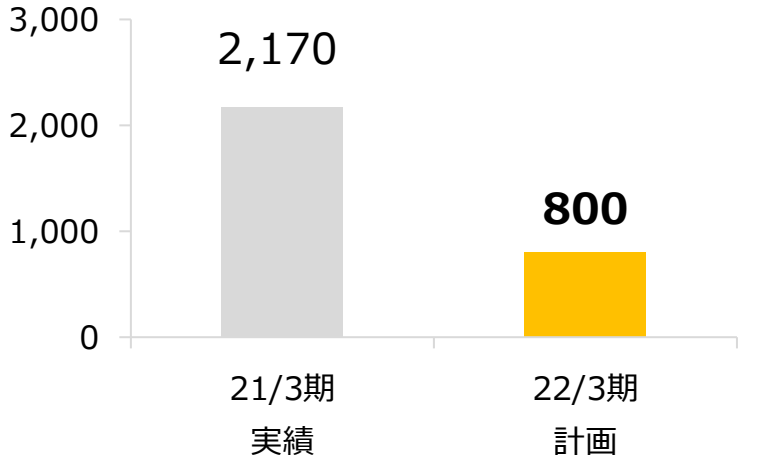
(百万円)



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



3. 2022年3月期取り組み方針

基盤整備ステージ

2019年3月期～2021年3月期

飛躍と成長ステージ

2022年3月期～2024年3月期

経営戦略

- 地球環境保全・資源循環を念頭に、新市場・成長市場に取り組む
- 技術の革新を継続し、市場ニーズに応え、世の為、人の為の容器メーカーとなる
- 日本、中国の連携・協業を強め、わが社ならではの価値を生み出す

行動指針

1. 「魂」を込めてやり抜く

- 目標・計画を必達する「企業魂」
- 大切に大事に製品を造り上げる「モノ造りの魂」
- 愛着を持ち、お客様に感謝頂く「製品を愛する魂」

2. 創意工夫をこらし、新市場・成長市場に取り組む

3. 連携・協調・協業を大切にし、内を向くのではなく、新しいチャンスに挑戦する

2022年3月期 全社スローガン

「変革・挑戦・開発」

- 企業活動全般を抜本的に「**変革**」
- 成長市場、新市場の開拓に全社を挙げて「**挑戦**」
- 経営トップから一社員に至るまで全社員が創意工夫をこらして「**開発**」に取り組む

4. 2022年3月期第2四半期 振り返り

(1) 外部環境

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大下、企業活動の制約
- ▶ 外食・旅行・イベント・インバウンド関連需要は低調の一方、
中食・内食向け需要は好調
- ▶ 原材料価格の急騰
- ▶ 世界的な環境意識の高まり

- プラスチック資源循環促進法が国会で可決された
- 9月下旬より英国グラスゴーでCOP26が開催された

(2) 国内事業

▶ 新市場・成長市場 への取り組み

- 環境配慮型素材・製品の開発・拡充
- ライフスタイル、働き方の変化に伴う成長市場への取り組み（フードデリバリー、テイクアウト等）

▶ リサイクル への取り組み

- 日本製鉄に加え、化学メーカーとのケミカルリサイクル協業
- リサイクルPET等マテリアルリサイクルの強化

▶ オペレーション改革 の継続的な推進

- 製販物機能間連携強化
- 素材開発体制の拡充
- 小集団活動を通じた「変革」への提案

(3) 中国事業

▶環境配慮型素材・製品の開発・拡充

- 生分解性素材をベースとする製品開発
- 非プラスチック製品（パルプモールド、木製カトラリー、紙製品等）の品揃え拡充



パルプモールド容器



木製カトラリー



紙容器

▶市場ニーズに見合う新製品投入

▶日本事業との連携加速

5. 下半期に向けて

(1)外部環境

- ▶ 国内外とも新型コロナウイルス感染再拡大のリスクはあるものの経済活動、企業活動は徐々に正常化に向かう
- ▶ 地球環境保全に向けた環境への意識は世界的に一段と高まる
- ▶ 原材料価格をはじめとして急激なコスト上昇が継続する

(2)取り組み事項

- ▶ 日本、中国とも環境配慮型素材・製品の開発・拡充を継続する
- ▶ 中国では設備導入した生分解性素材をベースとする製品、紙製品を本格稼働させる
- ▶ コスト上昇が自助努力の限界を超えつつあり、製品価格の修正を図る
- ▶ 技術、営業面での日本、中国の連携を強化する
- ▶ 2022年2月16～18日に『展示商談会2022』を開催
会社方針を説明するとともに、新素材・新製品等の展示・提案を行う

展示商談会2022

開催



SMTS 2022
SUPERMARKET TRADE SHOW
スーパーマーケット・トレードショー

に出展いたします

日時 : 2022年2月16日(水)~18日(金)
10:00~17:00
※最終日は16:00まで

場所 : 幕張メッセ

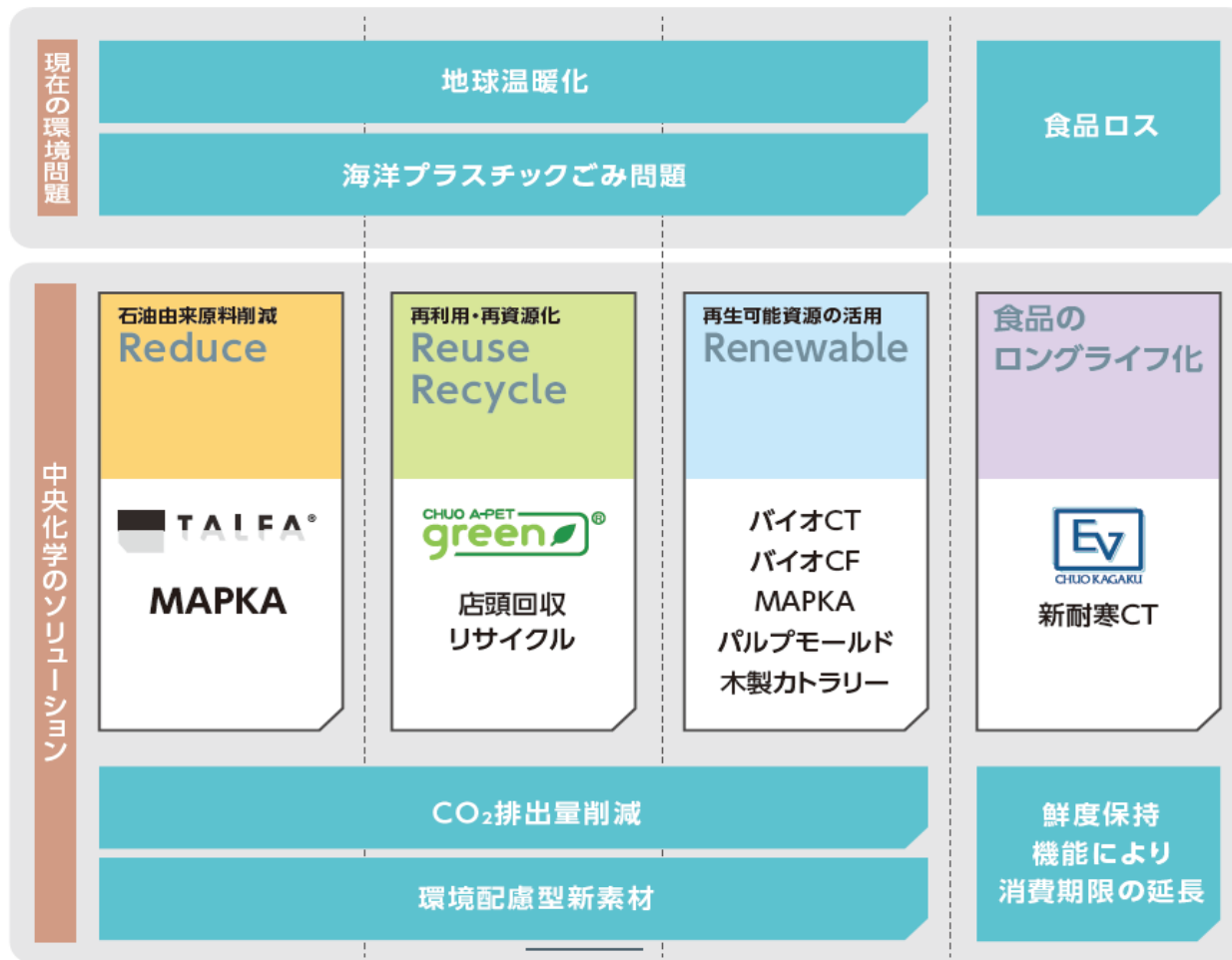
テーマ：
地球環境と食の安全のために
～エッセンシャルユースとしての、
容器の機能と役割～

6. 中央化学の地球環境保全への取り組み

6. 中央化学の地球環境保全への取り組み

当社は、「地球環境保全と食の安全に貢献する、世の為、人の為となる容器メーカー」を目指し、「環境配慮型素材・製品の開発・拡充」、「リサイクルの推進」を事業の柱としています。

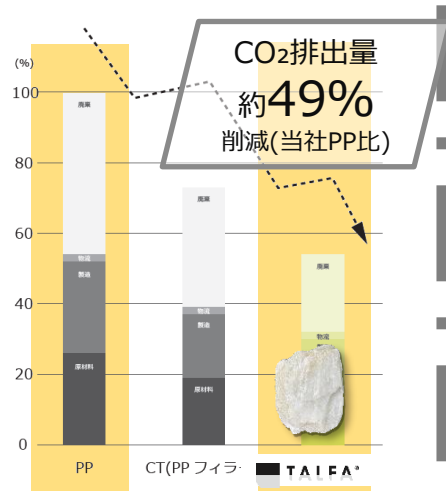
日本では2022年4月に「プラスチック資源循環促進法」が施行される見通しとなり、中国ではシングルユースのプラスチック製品への規制が強まる中、当社は、「CO₂排出量削減」「食品ロス削減」に寄与する素材・製品開発を戦略的に進めてまいります。



環境配慮型素材・製品の開発・拡充



天然資源「タルク」を主原料とし、プラスチック使用量を大幅削減



■ 製品ラインナップ増加中

【DINER】



【R-DON】



MAPKA

マブカ

紙パウダーを主原料とし、プラスチック使用量大幅削減

CO₂排出量
約41%
削減(当社PP比)



■ 製品ラインナップ
【MPK街デリBOX】

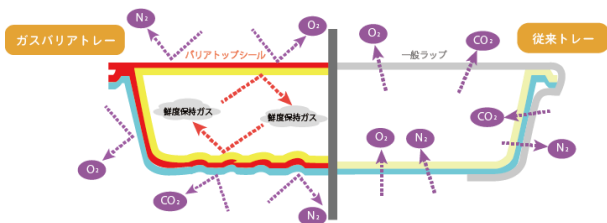


食品ロス削減



CHUO KAGAKU
EVER VALUE

消費期限を延ばし食品ロスを削減



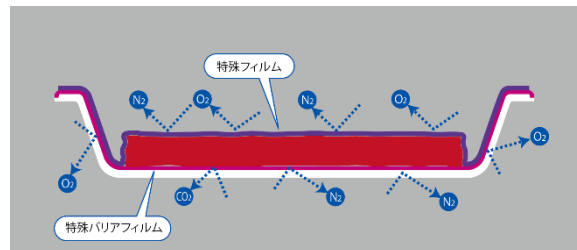
鮮度保持ガスを容器内に密閉し、食品の酸化・雑菌の繁殖を抑制することにより、鮮度を保持できる当社独自の容器です

■ 製品イメージ



バリアスキンパック

食品をトレー材とスキンフィルムで隙間なく圧着した密閉包装



特殊バリアフィルムを貼った容器に食材を乗せ、スキンフィルムで圧着することで、酸素や窒素を通さない密閉包装をした容器です

■ 展示イメージ



耐寒CT

冷凍からレンジアップまで安心

130℃の耐熱性のある当社素材CTを使い冷凍も可能にした容器です

■ 製品ラインアップ



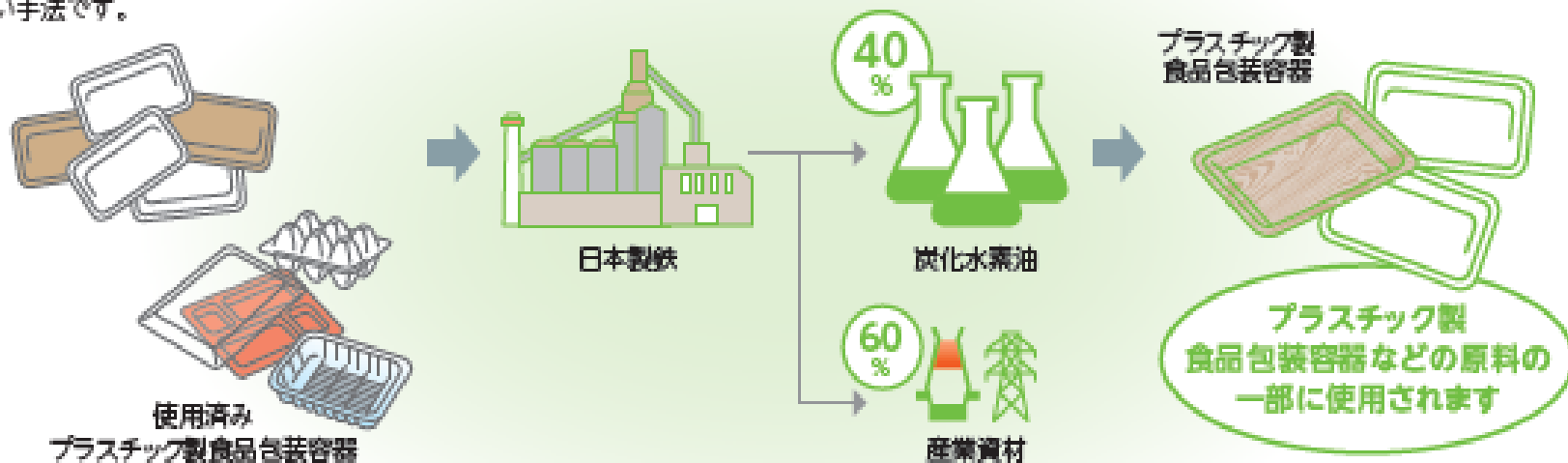
YD

リサイクルの推進

- ◆1990年より消費者・小売店・包装資材店との協力により、店頭回収リサイクルに取り組んでいます。
- ◆多種多様な素材のプラスチック製包装容器のリサイクルシステムの構築を目指しています。

ケミカルリサイクル

使用済みプラスチック製食品包装容器は、日本製鉄(株)のコークス炉化学原料化法によって再資源化されます。生成物の一部は、プラスチック製食品包装容器などの原料として生まれ変わります。すべての素材に適用したリサイクルシステムづくりには、ケミカルリサイクルは欠かせない手法です。



特徴①

さまざまな種類のプラスチック素材がリサイクル可能です

特徴②

プラスチックはほぼ100%再資源化され、有効活用されています

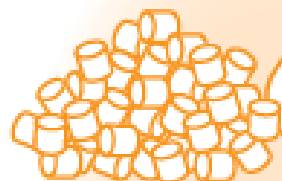
特徴③

物性も衛生安全性も備えたプラスチックなどの原料として生まれ変わります

リサイクルの推進

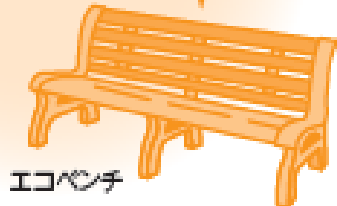
マテリアルリサイクル

使用済み発泡スチロールトレイは再生ペレットとなり、リサイクル製品工場などへ



再生ペレット

エコベンチなどの原料の一部として使用されています



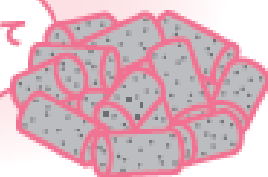
エコベンチ

サーマルリサイクル

使用済みプラスチック製食品包装容器は固形燃料となり、地域の製紙会社などへ

製紙会社や発電施設などのボイラー燃料として使用されます

固形燃料



(リサイクル拠点)

効率的な資源循環

地域特性を活用する資源循環

地域に活力をもたらす資源循環

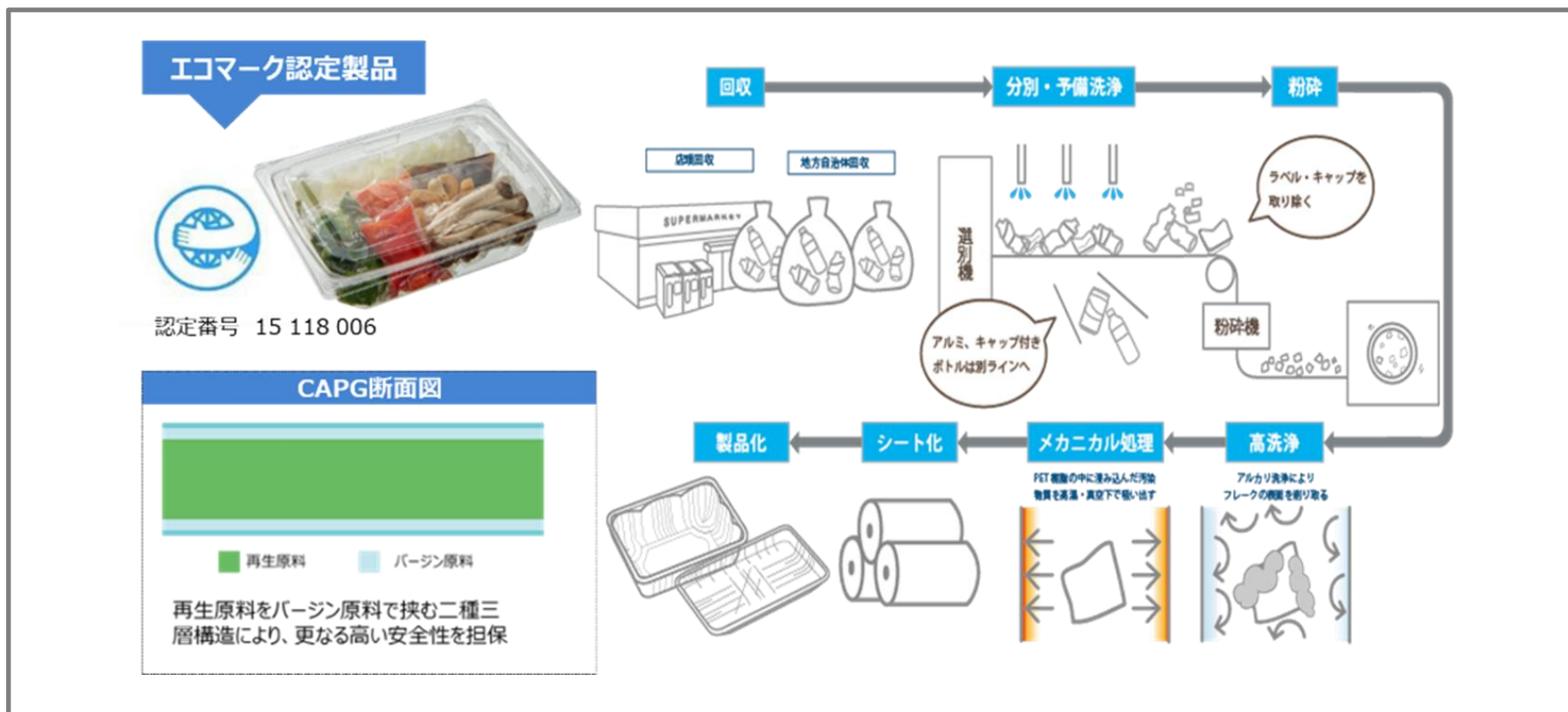


リサイクルの推進

C-APG (リサイクルPET)

- 厚生労働省の再生プラスチック使用に関するガイドライン(※)に準拠した製品です
- PETトレイ協議会の自主規制基準に沿って製品化、食品に直接接触する全ての用途に使用可能

(※食品用器具及び容器包装における再生プラスチック材料の使用に関する指針)



中国での新製品の市場投入について

✓T-PLA(耐熱PLA)

⇒非分解性プラへの規制が進む中国。生分解性且つ耐熱性・耐油性を有する素材として開発。



✓紙容器

⇒プラ規制が進む中国国内向け製品開発、市場開発を推進。
先ずは、脱プラが進む欧州顧客向けに製品開発、供給を開始予定。



✓木製カトラリー

⇒石油由来成分の素材から、木製素材に変更することで、CO₂排出を削減。
大手外食チェーン他で採用



✓パルプモールド容器

⇒100%植物由来であるパルプモールド製品の開発と販売開始。



✓生分解性レジ袋

⇒生分解性レジ袋の開発、製品化に取り組む。今回の規制を受け大手CVS、スーパーに採用。



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。